機関連携プロジェクト予備研究（ＦＳ）ＦＡＱ

【機関連携ＦＳおよび機関連携プロジェクトについて】

Ｑ．機関連携ＦＳの研究活動はいつからスタートできるでしょうか？

Ａ．採択された場合は平成２６年４月１日より実質的な活動をスタートしていただけます。

Ｑ．機関連携ＦＳから 本研究（ＦＲ）に発展する際、ＰＲ(プレリサーチ)期間を設けるのですか？

Ａ．機関連携ＦＳについては、ＦＳ責任者の希望に応じてＰＲを設定するか否かを判断します。なお、こちらからＰＲ期間を設けるようお願いする場合もあります。

Ｑ．個別連携プロジェクト(現行の連携研究プロジェクト)、未来設計プロジェクト(現行の基幹研究プロジェクト)、機関連携プロジェクト各々の研究活動数は今後どのように推移する見通しですか？

Ａ．研究プロジェクトの採択は地球研研究プロジェクト評価委員会（ＰＥＣ）による評価に委ねられているため、今後の推移は委員会の評価により変化していきます。

【応募書類について】

Ｑ．応募書類には、機関連携ＦＳ期間のみの計画内容を記載するのでしょうか。ＦＲまで見越した計画内容を記載するのでしょうか。

Ａ．ＦＲまで進展することを視野に入れた計画が望ましいです。

【所内対応者について】

Ｑ．所内対応者にはどのレベルの研究者を充てることになりますか？

Ａ．地球研所内対応者には可能な限り地球研に所属する教授クラスが充たることを予定しています。

Ｑ．所内対応者はどの段階まで関わることになりますか？

Ａ．ＦＳの実施期間中は所内対応者が責任を持って対応します。ＦＲに進展した場合の共同リーダーやメンバーとしての参加を前提としてはいません。

Ｑ．機関連携ＦＳの実施期間を延長して２年間とする場合、２年目の所内対応者はどうなりますか？

Ａ．２年目の対応者については、双方の意向を尊重し相談のうえ変更もしくは継続を決定します。

【ＦＳ責任者および機関連携ＦＳのメンバーについて】

Ｑ．機関連携ＦＳの人件費で雇用する研究員等が連携機関に勤務し、ＦＳの業務を行うことは可能ですか？

Ａ．可能です。

Ｑ．機関連携ＦＳ責任者及び連携機関に所属するＦＳメンバーの参加にあたって、エフォート等に定めはありますか？

Ａ．機関連携ＦＳ責任者及びＦＳメンバーのエフォートについては特に定めていません。

【ＦＲに進展した場合のプロジェクトリーダーについて】

Ｑ．公募要領に、ＦＲに進展した場合、プロジェクトリーダーの「地球研におけるエフォート率等は個別に相談」とありますが、具体的にはどういったことですか？

Ａ．プロジェクトリーダーの地球研での活動のエフォート率は可能な限り高いことが望ましく、７割以上を期待しています。なお、プロジェクトリーダーが十分なエフォートをさけない事情がある場合は、地球研での活動を主とすることを前提にした共同リーダーを立てることも可能です。

Ｑ．公募要領に「プロジェクトリーダーは所属機関から地球研への出向あるいは派遣といった形態をとるか、または地球研の専任教員になっていただく」とありますが、所属機関との兼任は可能ですか？

Ａ．可能です。地球研と所属機関のエフォート配分については個別に相談させていただきます。